

語り手 浦上金一さん

(昭和3年生まれ)

平成8年11月16日収録

あらすじ

昔。お猿さんがたくさんにドジョウを捕って、他の猿に「がいにドジョウ捕ったぞ」と見せびらかして、ドジョウを食ったげな。ところが、隣におった猿が「わしもドジョウを捕らないけん」と、前の晩に捕った猿に「どげして捕ったか」と聞きに行った。

そうしたら「みやすいことだわ。おまえは長い尻尾だけん、その尻尾を利用して川ん中へつけちよぎゃ、なんぼでもドジョウがさばあついでへつけん、その尻尾を川ん中へつけえだ」と聞かした

猿のドジョウ捕り

(米子市観音寺)



イラスト・福本隆男

うそはかわいいそうなことに

いから、また明るる日、ようだ。その尻尾がしみが言ったように、尻尾をドジョウを捕った猿のところでしまつてくうけん、そのころへ出かけて聞いた。げすとドジョウが食ら「おまえが温い晩に行くけん、ドジョウが食わん懸命で引張あだ」と聞かせてもらった。寒い晩の川の水がカチンカチンにしみがあ、それから、その猿がそ晩に行かないけん。凍っのことも心がけておった。かさずにちゃーあんと岸になつたら、だんだんしもドジョウが来てくれなから尻尾をつけて待ちみてきて、本当に隣の猿

エートヤー

そう言つて、力いっぱい引張つたところろが、お猿さんの尻尾が、根元からポツンと切れてしまひ、その上、お猿さんの顔も真っ赤になつて、今でもお猿さんの顔というものは真っ赤であるし、尻尾は短くなつてしまつた。

隣の猿も尻尾が短かつたから、それで隣の猿と同じように短い尻尾になつたのだとや。

だから、他のものに、めっちゃにうそをついたりなんかすることは、かわいそうなことになるのだからね。

解説

関敬吾『日本昔話大成』の動物昔話の中の「動物葛藤」の「尻尾の釣り」にその戸籍がある。

(元鳥取短期大学教授)
(水曜日に掲載)

と引張るけれども、まだ上がらないものだから、また大きな声で、
大ドジョウ
小ドジョウ
抜いてごしえー
わしの命も
たまらのわあ
エートヤー